



CITIZEN

2024年度（2025年3月期）  
第3四半期決算説明会

シチズン時計株式会社

2025年2月12日

第3四半期累計（4-12月）	連結業績概要 . . . . .	4
	セグメント別業績概要 . . . . .	5
第3四半期累計（10-12月）	連結業績概要 . . . . .	6
	セグメント別業績概要 . . . . .	7
	時計事業 . . . . .	8
	工作機械事業 . . . . .	11
	デバイス事業 . . . . .	13
通期連結	連結業績予想 . . . . .	15
	セグメント別業績予想 . . . . .	16

広報IR担当の古川です。

2024年度第3四半期決算につきまして、ご説明させていただきます。

## 2024年度第3 四半期業績



## 第3四半期（4-12月）増収減益

(単位：億円)	2023年度	2024年度	前年同期比	
	9カ月累計実績	9カ月累計実績	増減額	増減率
売上高	2,388	2,417	+28	+1.2%
営業利益	234	190	▲43	▲18.7%
営業利益率	9.8%	7.9%	-	-
経常利益	274	219	▲54	▲20.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	206	222	+15	+7.3%
為替レート	¥143/USD ¥154/EUR	¥152/USD ¥165/EUR		

4

第3四半期累計期間のPLの概要になっております。

売上高は2,417億円、円安の影響もありまして、前年比1.2%の増収となりました。

一方、営業利益は、時計事業の宣伝費など販管費の増加や中国・アジアの減収、それから工作機械事業の減収等によりまして、190億円と前年比18.7%の減益となりました。

経常利益は219億円と、為替差益の減少もあり、前年比20.0%の減益となっております。

親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、投資有価証券売却益の計上等により、222億円と前年比7.3%の増益となりました。

## 2024年度第3四半期累計（4-12月）セグメント別業績概要

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2023年度	2024年度	前年同期比		セグメント	業績
	9カ月累計実績	9カ月累計実績	増減額	増減率		
時計事業	1,272	1,359	+86	+6.8%	■ 時計事業	【増収減益】
工作機械事業	621	559	▲ 62	▲10.0%	■ 工作機械事業	【減収減益】
デバイス事業	325	304	▲ 20	▲6.3%	■ デバイス事業	【減収増益】
電子機器他事業	169	193	+23	+14.1%	■ 電子機器他事業	【増収増益】
合計	2,388	2,417	+28	+1.2%		
<b>営業利益</b>						
時計事業	184 (14.5%)	157 (11.6%)	▲ 26	▲14.4%		
工作機械事業	75 (12.1%)	43 (7.9%)	▲ 31	▲41.5%		
デバイス事業	4 (1.3%)	6 (2.2%)	+ 2	+53.1%		
電子機器他事業	13 (7.7%)	26 (13.9%)	+ 13	+106.3%		
消去又は全社	▲ 42	▲ 45	▲ 2	-		
合計	234 (9.8%)	190 (7.9%)	▲ 43	▲18.7%		

5

こちらは事業セグメント別の業績の内訳となっております。

時計事業、工作機械事業が減益、デバイス事業、電子機器他事業は増益となりました。

後ほど、主要事業の概況をご説明いたします。

## 第3四半期（10-12月）減収減益

(単位：億円)	2023年度	2024年度	前年同期比	
	3Q(10-12月)実績	3Q(10-12月)実績	増減額	増減率
売上高	859	851	▲7	▲0.9%
営業利益	98	67	▲31	▲32.1%
営業利益率	11.5%	7.9%	-	-
経常利益	100	97	▲3	▲3.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73	99	+26	+36.0%
為替レート	¥149/USD ¥160/EUR	¥150/USD ¥162/EUR		

6

続いて、第3四半期、3カ月間の連結業績についてご説明いたします。

売上高は、851億円、0.9%の減収。

営業利益は、67億円、32.1%の減益、営業利益率は7.9%でした。

経常利益は97億円、前年比3.4%の減益、  
親会社株主に帰属する四半期純利益は99億円と前年比36%の増益となりました。

## 2024年度第3四半期（10-12月）セグメント別業績概要

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2023年度		2024年度		前年同期比		セグメント	業績
	3Q(10-12月)実績	3Q(10-12月)実績	3Q(10-12月)実績	3Q(10-12月)実績	増減額	増減率		
時計事業	487	512	487	512	+24	+5.1%	■ 時計事業	【増収減益】
工作機械事業	207	185	207	185	▲21	▲10.6%	■ 工作機械事業	【減収減益】
デバイス事業	103	96	103	96	▲6	▲6.1%	■ デバイス事業	【減収増益】
電子機器他事業	61	57	61	57	▲4	▲7.0%	■ 電子機器他事業	【減収減益】
合計	859	851	859	851	▲7	▲0.9%		
営業利益								
時計事業	82 (16.9%)	63 (12.3%)	82	63	▲19	▲23.5%		
工作機械事業	22 (11.1%)	13 (7.4%)	22	13	▲9	▲39.9%		
デバイス事業	0 (0.3%)	0 (0.8%)	0	0	+0	+158.0%		
電子機器他事業	6 (10.2%)	3 (5.7%)	6	3	▲3	▲47.8%		
消去又は全社	▲13	▲13	▲13	▲13	+0	-		
合計	98 (11.5%)	67 (7.9%)	98	67	▲31	▲32.1%		

7

事業セグメント別の業績の内訳でございます。

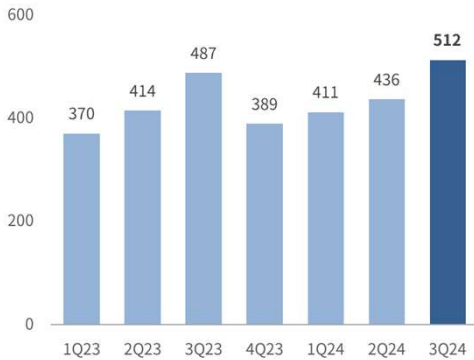
時計事業は増収減益、工作機械事業は減収減益、デバイス事業は減収増益、電子機器他事業は減収減益となっております。

それでは、セグメント別にご説明いたします。

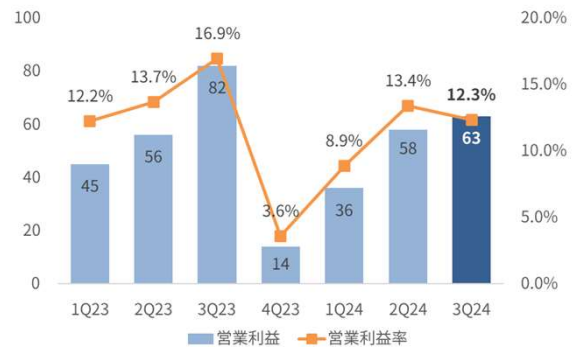
第3四半期（10-12月） 増収減益

- 完成品 国内市場は、内需・インバウンド需要共に前年を上回り、増収  
海外市場は、中国の景気低迷に伴いアジアの販売が低迷するも欧米が堅調さを保ち、増収
- ムーブメント 欧米向けを中心にアナログクォーツムーブメントの付加価値製品などが堅調に推移し、増収

売上高（億円）



営業利益（億円）・営業利益率



まず、時計事業となっております。  
こちらは第3四半期、3カ月間の概況でございます。

売上高は512億円、5.1%の増収、営業利益は63億円、23.5%の減益となりました。

完成品販売の国内市場は、内需、インバウンド需要共に前年を上回り、増収となりましたが、インバウンド向けの販売については計画をやや下回る結果となりました。

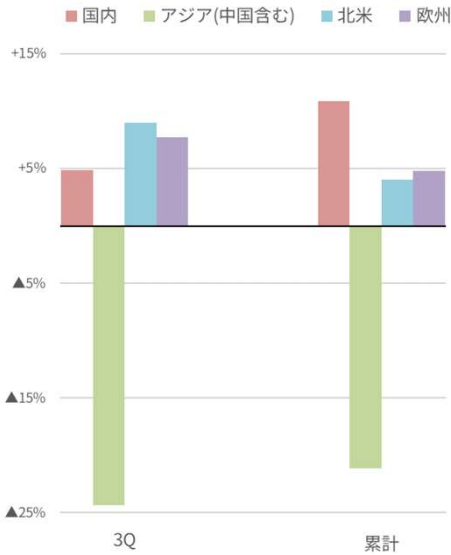
海外市場は、アジアが中国の市況悪化などにより大幅に販売が低迷いたしました。北米、欧州共に堅調さを保ち、増収となりました。

ムーブメント販売につきましては、欧米を中心にアナログクォーツムーブメントの付加価値製品が堅調に推移いたしました。増収となっております。

営業利益については、第3四半期では海外販売での単価上昇が見られず、ブランド100周年の宣伝費など販管費の増加やコストの上昇などが吸収できず、減益となっております。また、市況低迷に加えまして、代理店の在庫調整があった中国の営業損失も影響しております。



■ 前年同期比増減率（現地通貨ベース）



■ 地域別販売状況（10-12月）

地域	前年同期比	詳細
国内	【増収】	『ATTESA』や『xC』などの中核ブランド、『The CITIZEN』『CAMPANOLA』などのプレミアムブランドが堅調 インバウンド需要は想定には届かなかったものの、増収
アジア(中国含む)	【減収】	中国は市況悪化に伴い販売が大幅減 タイなど一部市場に回復傾向
北米	【増収】	宝飾チェーン・百貨店が堅調さを維持
欧州	【増収】	イギリスやフランスなどが堅調に推移

こちらは、現地通貨ベースの地域別売上高の伸び率となっております。

左の棒グラフが第3四半期の3カ月間の状況となっておりますので、こちらのコメントをさせていただきます。

赤色の国内は、『ATTESA』や『xC』などの中核ブランドに加えて、『The CITIZEN』、『CAMPANOLA』などのプレミアムブランドが堅調に推移し、増収となりました。

緑色のアジアは、タイなどの一部市場で回復傾向が伺えたものの、中国の市況悪化の影響を受け、販売が大きく減少しました。

青色の北米は、主力流通である宝飾チェーン・百貨店向けなどに加え、専門店向けの販売が堅調さを保ち、増収となりました。

紫色の欧州は、イギリスが堅調に推移したほか、フランスにおいて「CITIZEN」ブランド時計100周年等の宣伝活動が寄与し、増収となっております。

『CAMPANOLA』世界観を体験できる特別イベントを開催

- 「宙鏡（そらかがみ）」3モデルの発売を記念し、六本木ヒルズ 大屋根プラザにて開催
- 星空を美しいと感じる普遍的なロマンを表現した「宙鏡」の世界観や美しさを体感いただける場をご用意
- 豪華な音楽アーティストをゲストに、J-WAVE STEP ONE「CAMPANOLA MUSIC+1」の公開収録も同時開催



  
CAMPANOLA



場 所 : 六本木ヒルズ大屋根プラザ  
日 時 : 2024年11月8日(金)~10日(日)

10

時計事業のトピックスとなります。

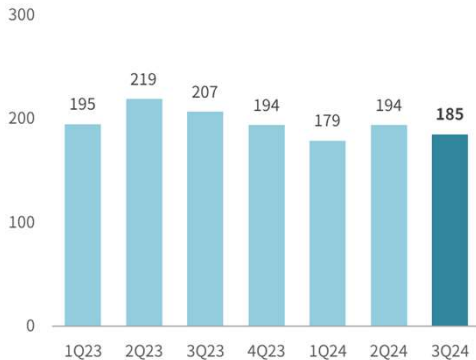
当社のプレミアムブランドの一つである『CAMPANOLA』の新製品「宙鏡（そらかがみ）」3モデルの発売にあわせまして、六本木ヒルズにて特別イベントを開催しております。

『CAMPANOLA』はデビューしてから25年、独創性の高さからコアなファンにご愛顧いただいておりますが、さらに顧客層を広げるために「宙鏡」の世界観や美しさを体感いただき、また、流通とも連携しまして、売場の拡大にも取り組んでおります。

第3四半期（10-12月） 減収減益

- 国内市場 設備投資への慎重姿勢が継続する中、主に自動車関連の需要が回復せず、減収
- 海外市場 アジアは中国で販売が増加したほか、米州で医療関連の販売が堅調に推移するも欧州において自動車関連を主とした設備投資意欲が限定的となり、減収

売上高 (億円)



営業利益 (億円)・営業利益率



次に工作機械事業です。

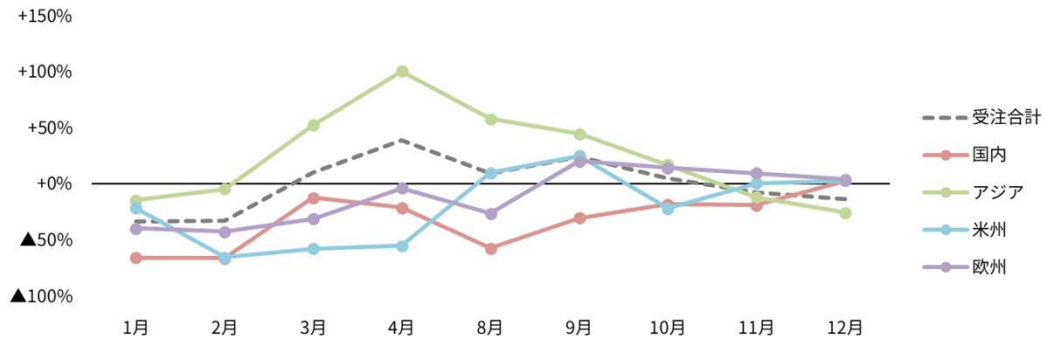
売上高は185億円、10.6%の減収、営業利益は13億円、39.9%の減益となりました。

国内は、設備投資への慎重姿勢が継続しており、主に自動車関連の需要が回復せず、減収となりました。

海外につきましては、アジアにおいて中国で販売が増加したほか、米州は医療関連向けの販売が堅調に推移しましたが、欧州において自動車関連を中心に設備投資意欲が限定的となったことから、減収となっております。

また、減益の要因といたしましては、減収のほかに、中国向け販売が増加し国内向けが減少するなど、売上の地域構成が変化し製品ミックスが悪化したことも要因となっております。

3カ月移動平均受注台数 前年同月比増減率の推移



地域別の第3四半期（10-12月）の受注台数の状況（前年同期比）

● 受注合計	▲14%	
● 国内	+3%	自動車関連の低迷が継続するも全体では緩やかな回復基調
● アジア	▲25%	中国は米国の関税政策などへの懸念から設備投資に慎重姿勢 インドが堅調の一方、その他アジアは主力業種である自動車や半導体関連が低迷
● 米州	+3%	米国大統領選以降、設備投資への様子見姿勢が継続するも医療関連は堅調に推移
● 欧州	+4%	自動車関連を中心に設備投資意欲が限定的な中、医療関連は堅調を維持

12

こちらは、地域別の受注状況です。折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均の前年同月比の増減率です。

一部地域では底打ちの兆しも見えつつありますが、当初の想定よりも受注の回復が遅れています。

下の表は第3四半期の前年同期比の受注の状況です。受注台数の合計は前年比14%減となりました。地域別にみますと、

国内は、自動車関連の低迷が継続しているものの、緩やかな回復基調をたどり、前年比3%増となりました。

アジアは、インドなどで引き合いが堅調に推移しましたが、中国が米国の関税政策などへの懸念から投資に慎重となっているほか、その他のアジア地域におきましても自動車や半導体関連が低迷し、前年比25%減となりました。

米国は、大統領選以降も政策の様子見姿勢が継続してはいるものの、医療関連の受注が堅調に推移し、前年比3%増となりました。

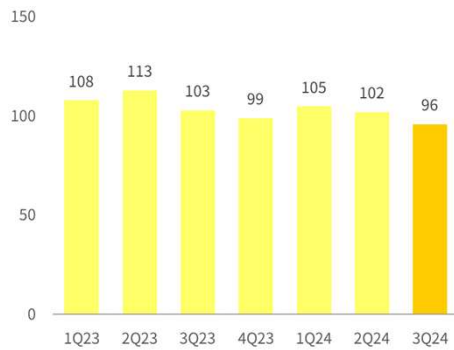
欧州は、自動車関連の投資が回復しない状況ですが、医療向けなどの受注が堅調さを保ち、前年比4%増となっております。

以上の通り、受注台数は前年比減少しておりますが、受注金額につきましては、欧米での医療関連の受注が好調なために、前年比で微増となっております。

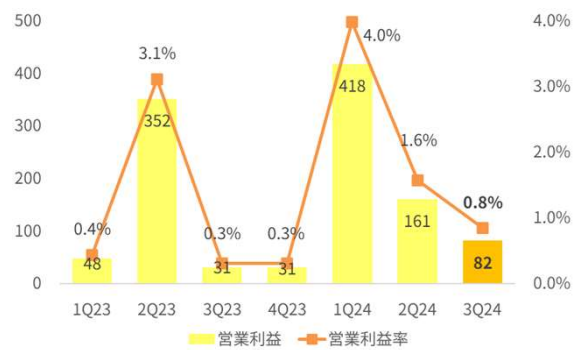
第3四半期（10-12月） 減収増益

- 自動車部品 国内市場の市場低迷が長引く中、海外市場が底堅く推移し、前年並み
- 小型モーター 顧客の在庫調整などの影響を受け、減収
- 他デバイス 水晶デバイスは増収、オプトデバイスは代理店の在庫調整などにより減収

売上高 (億円)



営業利益 (百万円)・営業利益率



最後に、デバイス事業です。

売上高は96億円、6.1%の減収、営業利益は黒字を確保しています。

自動車部品につきましては、海外市場は底堅く推移したものの、国内向けが減収となり、前年並みの売上となりました。

小型モーターは、欧州や中国の市況や顧客の在庫調整などの影響を受け、若干の減収となっております。

その他のデバイス製品では、水晶デバイスは増収となりましたが、オプトデバイスは代理店の在庫調整などにより減収となっております。

## 2024年度下期及び通期連結業績予想



## 2024年度通期業績予想

(単位：億円)	2024年度 11/11予想		2024年度 2/12予想		増減額		増減率	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	1,569	3,135	1,569	3,135	+0	+0	+0.0%	+0.0%
営業利益	107	230	91	215	▲15	▲15	▲14.4%	▲6.5%
営業利益率	6.8%	7.3%	5.8%	6.9%	-	-	-	-
経常利益	122	245	122	245	+0	+0	+0.0%	+0.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	97	220	102	225	+5	+5	+5.1%	+2.3%
為替レート	¥145/USD ¥155/EUR	¥149/USD ¥161/EUR	¥147/USD ¥159/EUR	¥151/USD ¥163/EUR				

## 為替影響額 (1円円安の年間影響額)

	USD	EUR
売上高	+6.5億円	+3億円
営業利益	+2億円	+1.5億円

最後に、連結業績予想につきまして一部修正をしておりますので、ご説明をさせていただきます。

まずは、通期の売上高は3,135億円を据え置き、営業利益は215億円に下方修正しております。

経常利益は245億円を据え置き、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては5億円引き上げ225億円といたしました。



2024年度 下期及び通期連結業績予想 セグメント別

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2024年度 11/11予想		2024年度 2/12予想		増減額		増減率	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高								
時計事業	877	1,725	877	1,725	+0	+0	+0.0%	+0.0%
工作機械事業	376	750	376	750	+0	+0	+0.0%	+0.0%
デバイス事業	202	410	202	410	+0	+0	+0.0%	+0.0%
電子機器他事業	113	250	113	250	+0	+0	+0.0%	+0.0%
合計	1,569	3,135	1,569	3,135	+0	+0	+0.0%	+0.0%
営業利益								
時計事業	96 (11.0%)	191 (11.1%)	86 (9.8%)	181 (10.5%)	▲10	▲10	▲10.4%	▲5.2%
工作機械事業	35 (9.5%)	66 (8.8%)	30 (8.2%)	61 (8.1%)	▲5	▲5	▲14.0%	▲7.6%
デバイス事業	0 (0.1%)	6 (1.5%)	0 (0.1%)	6 (1.5%)	+0	+0	+0.0%	+0.0%
電子機器他事業	6 (5.6%)	30 (12.0%)	6 (5.6%)	30 (12.0%)	+0	+0	+0.0%	+0.0%
消去又は全社	▲31	▲63	▲31	▲63	+0	+0	-	-
合計	107 (6.8%)	230 (7.3%)	91 (5.8%)	215 (6.9%)	▲15	▲15	▲14.4%	▲6.5%

16

下期の業績予想につきまして、事業別に修正のポイントをご説明いたします。

時計事業の状況は先ほどご説明した通りでございますが、完成品販売が、欧米では堅調に推移しているものの、国内の販売が計画に届いていないこと、また、中国を含むアジア地域が低迷していることから、営業利益を下方修正しております。

工作機械事業も概ねご説明した通りでございますが、売上の地域別構成が当初計画から変化した関係で、利益率が下振れしているため、営業利益を調整させていただきました。

デバイス事業及び電子機器他事業につきましては、前回の業績予想を据え置いております。





# CITIZEN

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。  
なお、億円未満は切り捨てになっています。

私からのご説明は以上となります。